2
vol.216
広報　縄文村だより vol.216（2月号）
Jomon Times
令和６年２月１日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928

東松島市文化財講演会
蝦夷（えみし）と柵戸（さくこ）（倭人（わじん））
古代牡鹿地方の住民の実態に迫る！

古代史ファン 180 名が集まる！

昨年の12月17日、矢本東市民センターで、東松島市文化財講演会『蝦夷と柵戸(倭人)ー古代牡鹿地方の住民の実態に迫る！ー』を開催しました。講師に東北学院大学名誉教授の熊谷公男先生をお招きし、会場には市内をはじめ、県内外から１８０名が集まりました。

飛鳥時代から奈良時代にかけての石巻地方は、陸奥国牡鹿郡（むつのくにおしかぐん）に属し、蝦夷との境界の地に位置していました。東松島市赤井（あかいかんがいせき）にある赤井官衙遺跡は、郡の役所跡または、蝦夷政策の軍事施設であると考えられています。

今回の講演会では、そもそも「蝦夷」とはどんな人たちだったのか、その成立と概念と彼らの文化、蝦夷の居住地の境界の変遷と律令国家の支配の関係、さらに赤井官衙遺跡の発掘調査からみる、移民の実態が語られました。

会場では、講演を聞きながら資料に見入ったり、うなずきながら熱心にメモを取る姿が多く見られました。

講演会で語られたキーワード。

「蝦夷」とは？
アイヌとも倭人とも異なる、律令国家からみて服従しない「まつろわぬ人々」。土器や住居などは倭人の文化を受け入れるが、墓制・言語は独自の文化を有した。

古墳の北限と蝦夷の居住地
「蝦夷」という概念ができたのは6世紀の半ば。古墳の北限ラインが倭人文化と蝦夷文化の境界線で現在の秋田・山形県境付近－大崎平野－北上川河口付近にあたる。アイヌ語地名が色濃く残る南限線とほぼ一致する。

「城柵」とは？
律令国家による蝦夷支配の拠点として、蝦夷との境界線に配置。牡鹿柵（おしかのさく）（赤井官衙遺跡）はその東端に位置する。城柵の造営と維持には「柵戸（関東地方からの移民）」があたった。牡鹿柵には上総国（かずさのくに）（千葉県）から丸子氏（まるこし）（のちの道嶋氏）らが移住し担った。

もっと知りたい！ 赤井官衙遺跡群（あかいかんがいせきぐん）

01 講演会のお知らせ
「赤井官衙遺跡群のどこがすごい!? - 古代城柵（こだいじょうさく）の発見 - 」

「牡鹿柵（おしかのさく）」推（お）しの講演会、開催！！
石巻かほく連載
「発掘！古代いしのまき 考古学で読み解く牡鹿地方」の著者が語る、赤井官衙遺跡群の魅力とは!?

日時：２月１８日(日)
13:00～15:00
場所：赤井市民センター
予約：予約不要・入場無料
講師：佐藤敏幸氏
（東北学院大学博物館学芸員）
共催：東松島市教育員会
赤井地区自治協議会

02 赤井市民センターで出土品を展示中です。
現在赤井市民センターで、赤井官衙遺跡群からの出土品を展示中です。ふだんは公開していない資料です。この機会にぜひご覧ください！

アンケートより

- 近くに住んでいても知らないことがたくさんあり、知る良い機会となりました。
- 今回の講演で赤井官衙遺跡について興味が持てました。今後も講演があれば聞いてみたい。
- 蝦夷の概念について理解が深まりました。蝦夷と柵戸の境界地域がどのように支配のしかたや文化の交流が進んだのか興味が持たれます。
- 赤井官衙遺跡がこんなに HOT なことを知らずに来てしまいました。熱い。地元の資源として、開発されず、残されていくと良いと思います。